

同志との出逢い、語り合い、つながる心地よさ

中間ふりかえり(2018年12月15日)実施

12月15日(土)13時からいつもの峰町5号館5C21教室で50名が参加して、中間ふりかえり会を実施しました。カレッジ事務局では天沼、橘川、廣瀬が担当しました。

今後の日程説明やアンケートのあと、受講者は5人1グループに分かれて、①簡単な自己紹介②お互いの授業の様子③来年度前期の受講予定科目などを順に話しをしながら、相互の交流を深めました。その後、グループでどんな話が出たのかを発表していただき、交流を深めました。受講者の方々にふりかえりの感想を書いてもらいました。

情報交換は大切だと感じた。他の参加者の考えもわかり良かった。経験の交流は驚きと共感を与えた。多様な受講者がいて、意見交換できて良かった。1人で受講しているので交流できて良かった。このような機会があればうれしい。他の授業の情報が聞けて参考になった。有意義な時間でした。貴重な情報を聞くことができた。交流の場の提供は良いアイデアだと思う。次回の選択に生かしたい内容でした。学びは生の原動力ということがわかった。他の講義の内容を知ることができた。思った以上に他の受講者がまじめで努力していることがわかった。メンバーの大半が前向きで積極的であり刺激を得た。地域に役立てるという気持ちが湧いた。同じ目的で学ぶ仲間という気持ちが持てた。他の受講者の思いや違いなどを学ぶことができた。

——受講者の感想から——

College Episode

■地域デザイン科学部の石井大一郎先生の「まちづくり論」。カレッジ受講者7名は今期で最も多い科目です。地域デザイン科学部3学科の学生の大半が受講する科目ということもあって、狭い教室は学生でいっぱいですが、学生との交流を進めながら授業が展開されています。授業では歴史や理論だけではなく、多様なゲスト講師を招いて授業が立体的に構成されています。まちづくりという現場感覚を大切にしながら、受講者の経験をふりかえることができる授業です。7名の受講者同士の交流も盛んで先生を招いての忘年会も開催しました。■

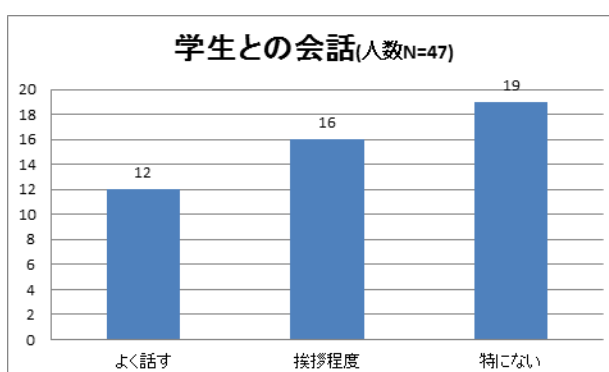
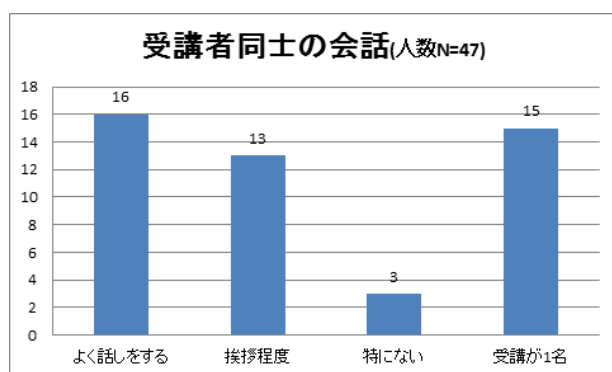
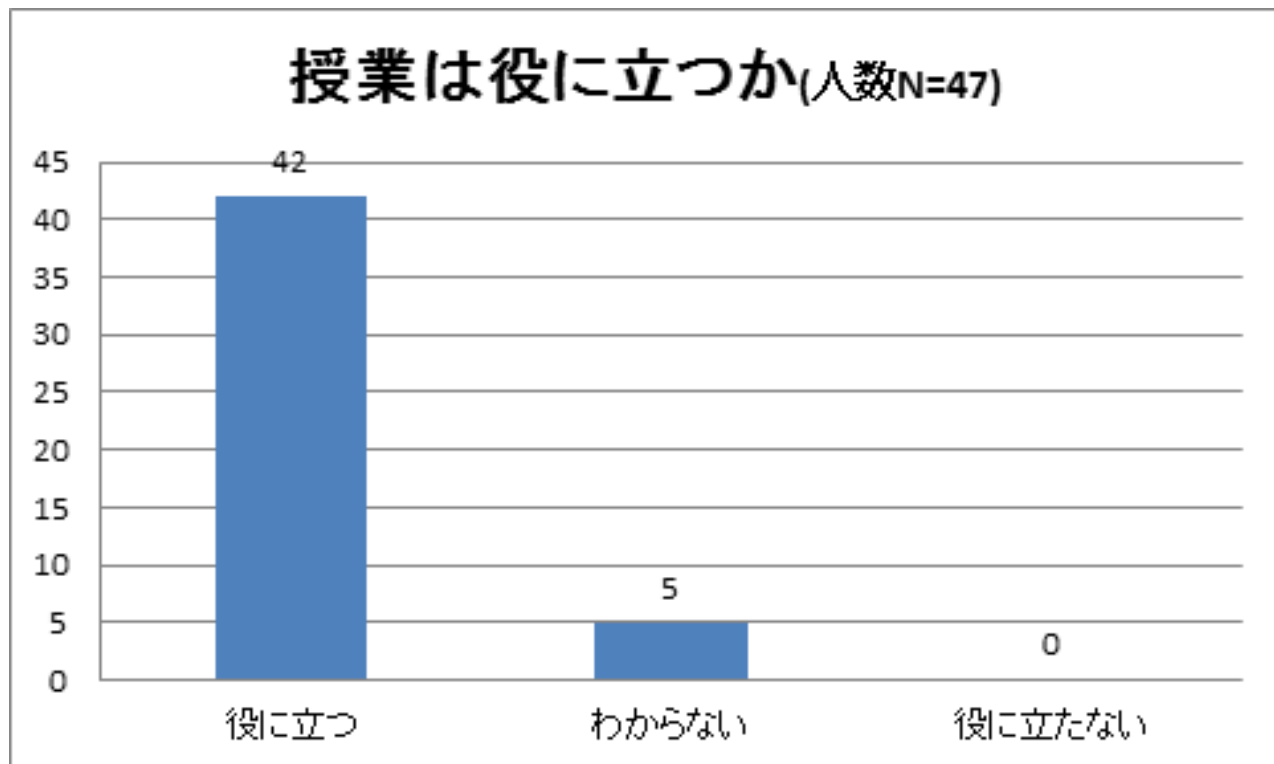
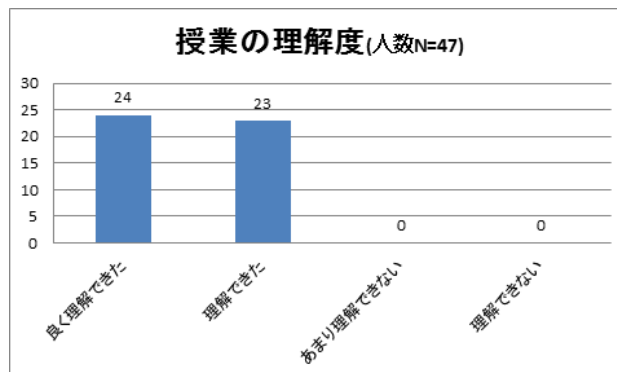
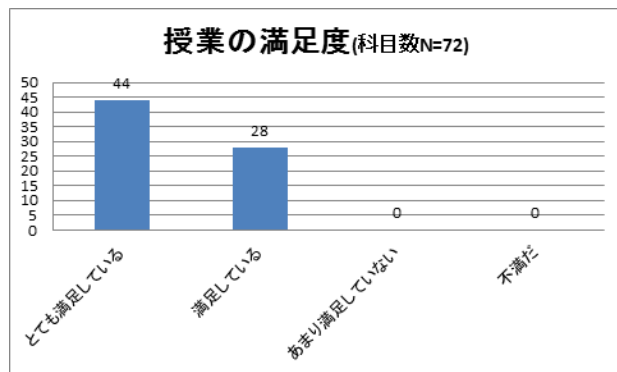


■同じく地域デザイン科学部の大森玲子先生の「食物科学」は、学生も20名以下の少人数授業。カレッジ受講者は3名。大森先生の朗らかな性格と身近な題材を取り上げた授業に受講者の方々も魅了されています。

毎回スライドでの丁寧な授業だけでなく、社会人のカレッジ受講者にも細やかな配慮をされています。授業終了後は自主的に図書館に出向き調べ物をするなど学習意欲も喚起されているようです。また、カレッジ受講者の方々がごぼうや大根などを使った昭和の香りのする料理をつくり、持ち寄りみんなで試食するなどあっという間に時間が過ぎる授業のようです。■



2018/12/15中間アンケート調査報告(回答者47人)



12月15日の中間ふりかえりの際に集約したアンケート調査の一部を掲載しました。全ての受講者が授業を理解し、満足し、かつその内容は役に立つと感じていることがわかりました。

また、半数以上の方々が図書館を利用しており、指定された教科書も購入していました。

また、別のデータでは、54名の受講者中、公開講座の受講経験者は25名(46.2%)でした。

受講者の高い満足度は、本学教員の質の高い調査研究に裏付けられた理解しやすい授業がこうした評価につながったものと思われます。受講者の高い学習意欲が背景にあるものと考えられます。